

第2回町田市観光まちづくり基本方針策定検討委員会 会議録

開催日時 2016年9月28日(水) 14時00分～16時00分

場 所 市庁舎2階 会議室2-3

出席者 出席委員： 西田司 委員長、高橋清人 副委員長、秋山綾 委員
中村浩之 委員、カイル・カード 委員、佐藤勲 委員、
鈴木悟 委員、本多浩子 委員

傍聴者： 1名

庁内検討委員(傍聴)： 産業観光課1名、地区まちづくり課1名、

事務局： 産業観光課観光まちづくり担当課長
産業観光課統括係長、産業観光課2名

<1. 議事>

(1) 第1回検討委員会会議録の確認

委員：何のために観光に力をいれていくのか、という趣旨での発言があったがその意図が汲まれていない。

事務局：会議録を整理する。

(2) 目指すべき方向性について

事務局から説明

①なぜ町田市で観光なのか(観光まちづくりに取り組む意義)

委員：前回の検討委員会での議論により、観光まちづくりを進めるにあたって市民に協力してもらおうということが重要であることは分かった。問題はどうか市民を引き寄せるか。

高千穂では若者が少ないので60才以上の人で町おこしをしている。野菜を作り、販売するために施設を作り働く、皆で協力するような活動を行っている。

市民が観光に携わることによってメリットがあると感じれば、協力してもらえるのではないか。

委員：ウォークツアーのように観光資源の魅力を来訪者に顔が見える関係で伝えていくことが重要だろう。説明を受けることで、たわいもないと思われるような観光資源の魅力に気付かされることがある。

委員長：今回、検討しているのは「観光まちづくり」である。「観光」だけではなく、それとともにまちをどう作っていくかがベースになる。

委員：町田においても、商店街によっては人通りが少なくなっているところもあり、観光を切り口にした地域振興、商店振興は地域の事業者にとってはありがたい。

委員：資料中に「市民の市内滞在時間を増やし」という表現があるが、「市内の滞在時間」というと、観光の要素がなかなか感じにくい。人が移動することによって生まれる賑わいや消費といったことまで含まれるような表現にすべき。

目標が地域活性化であるなら、「地域活性化も目指す」ではなく「地域活性化を目指す」としたほうがよい。

経済活性化や地域活性化を切り口として、「観光まちづくり」をどうしていけばいいか、何をしたらいいかを探求していくべき。

委員：今回の方針づくりは、観光だけではなく、それを通したまちづくりに重点を置いていと思う。地域によって温度差があるので、どう整理するのが重要だろう。

委員：町田には魅力的な観光資源が多いが、すべての地域で同じように魅力を伝えていくというのは難しい。地域活性でいう「地域」が町田全体なのか、まちなか部分なのかをちゃんと意識して考えていく必要があるだろう。

②町田市の観光の現状

委員：高千穂では観光まちづくりの担い手が、時間の融通がきく高齢者しかおらず、やるしかないとせっぱつまっている。

委員：町田の中で担い手となれる人たちとはどういうところにいるのか。

委員：市内で、活性化を目指して色々な祭りをやっている。市や町内会自治会、その他色々な団体が色々な行事をやっている。

ターゲットを絞ることで、「町田の観光まちづくり」の議論がしやすくなるのでは。

委員：外国人観光客が来訪することによってまちが活性化する部分があると思うので、外国人観光客をターゲットに、どうしたら呼べるのかを議論してはどうか。

市民にどうやって市内観光を楽しんでもらうのかという話にとどめるのではなく、外から訪れる人に何を与えられるかを切り口にしたほうがいいのでは。

委員長：現在の「観光」は外から訪れる人に名所をPRするのではなく、地域内の人たちがこういう活動をしていて興味深いなど、生き方や地域の生活に共感して人が来るという風に変わってきている。

30代、40代を対象に移住促進につなげることも、幅広くとらえて観光である。かつての「新婚旅行どこに行く？」といったような観光では今はない。

観光という尺度をどの部分にまで広げて話すのが重要。その目線は委員で揃えておいたほうがいい。

委員：なぜ町田で観光を進めるといのは委員の中では概ね共有化されただろう。

町田を訪れる観光客がどこから来ているか、または来ている人の性別などがわからないと、具体的にどうアピールすればいいのかわからない。

事務局：エリアごとのデータについて、町田駅周辺は中心市街地での調査を実施しているのですぐお知らせできる。

薬師池周辺は、細かい調査を9月の中旬に実施しているので、次回の検討委員会でお知らせできる。

小山田・小野路は小野路宿里山交流館の来館者数のほか、来館者アンケートを実施しているので把握できている。数字があるものは出していきたい。

委員：薬師池は休日になると渋滞でなかなか辿りつけない。町田の観光施設は住宅と近接しており、地域と一緒にやっていく必要があるだろう。

委員長：町田の観光は生活と密着していることから、駐車場を作り、人を呼ぶという観光ではないと共有できたのは大きい。

③町田市の観光まちづくりの方向性について

委員：市民が町田市の観光資源に気づき、相互に訪れ、実際に交流を楽しむ流れが、観光を楽しむことだということを明確にしたほうがいい。

また段階があって、訪問者の滞在時間を増やすことにより、地域内消費額が拡大し、地域活性化につながる。地域活性化は継続的に人が訪れることによって、賑わい創出や地域づくりにつながる。こういったことが方向性だと思う。

観光資源を活用することにより、何をやってどういう状態にもっていくのかを考え、具体的に盛り込まないとぼやとしてしまう。目指すものを市民が理解できるよう、表現する必要がある。

委員：まず人を呼べるきっかけを作り、来てもらう。何か推したいものがあれば、地域の人に思いっきりやってもらう。その時、担い手側にもお金が入る等のメリットがあると皆がプラスになる。

委員：基本のビジョンを市民、団体、事業者と共有化することが重要。そして目標とする年度までに何をするかを明確化し、市民、団体、事業者に具体的な役割を持ってもらい、自分の役割は何かを認識してもらう必要があるだろう。

現状を知るだけでなく、具体的に何をやればいいのか検証し、次の計画に反映できるようにするためにも、データが必要。

委員：町田は有効求人倍率が低いので、雇用創出が課題だと思っている。観光まちづくりの直接的な効果としては、交流人口の増加や観光による雇用創出、新たな産業の創出が挙げられる。

委員：将来的には新たな雇用創出に繋がるといってもいいのでは。観光まちづくりを進めることで、地域内消費、雇用創出、参加した人の活躍の場などが提供できたかなど、数値が増えていくことが、市民の理解に繋がる。

データを示すことで、次をどうするか、増えないならどうするかという議論になる。

一番重要なのは直接的な効果で、地域活性化や経済活性化にどう繋がったかである。

自分たちが設定したKPI（目標値・物差し）の達成度合いを測る。なぜ観光なのかに結びついていかないと一貫通貫にならない。

委員：何のために観光まちづくりを進めるのか、市民に理解してもらえるよう分かりやすいものを作るべき。

データで検証できるのは理想で、そこに行き着くまでは大変。

資料には東京都には5つの戦略があると書いてある。具体的な戦略を作っていたほうがよい。

委員：2030年までの14年間をどう分けて、どう議論するのか。前期、中期、後期に何をするかを作っていただきたい。ステップを踏み、共有化したほうがよい。

今日、最終的な方向を話したので、それに向けてどうやっていくのかを具体的に深く掘り下げてほしい。